

将来について考えたこと

張 坤
ZHANG KUN

私は2019年6月に中国江蘇省の高校を卒業した。熊本に来たきっかけは、高校2年生の夏休みに父の友人を訪ねて熊本に一週間くらい滞在したことだ。そのおじさんは熊本の大学を卒業して、就職し、現在はこちらで家族とともに生活している。そして、熊本は学習環境が整っていて、都会にくらべて生活しやすいと教えてくれた。私もそう感じた。熊本は落ち着いた街並みで気に入った。元々日本のアニメ、例えばワンピースやジョジョの奇妙な冒険などが好きだった。外国で生活することで人間的にも成長できると思った。父も友人のおじさんがいるので、安心して日本留学を応援してくれた。それで日本語の勉強が修了したら、工業技術について学びたいと考えている。将来はエンジニアとして働くのが今の夢だ。

私ははじめ、2020年の4月に日本に来る予定だった。ご存じのようにコロナ感染症の拡大のため、来日が遅くなった。待機しているときは、日本留学が本当に実現できるのか不安だった。しかしその間、これからの世の中について考えた。やはり、今後、一人一人の生活の距離間は広がっていくと考える。アフターコロナの私たちの生活は変わるべきだと思う。私はその変化のために役立つ技術を学びたい。

特に興味があるのは、高齢者や病気の人を生活を支える技術の開発だ。感染症の拡大の時は医療従事者の人が感染しないかととても心配だった。このような状況を遠隔センサーの技術やロボット開発によって、感染のリスクを低くすることができ

と思う。また、中国は厳しい隔離生活だったが、このような時も、孤独でほかの病気の心配がある高齢者たちはとても困っていた。これは世界共通の状況だっただろう。

中国の国民の高齢化のスピードはとても速い。元気がどうか離れて暮らす家族も心配だ。このような生活も技術で支え、助けることができると思う。たしかに、この分野では中国の一部ではとても進んでいる。たとえば電子マネーなどは日本より普及している。しかし、私は自分自身の成長のためにも、日本で学ぶことを決心した。

これからも専門の勉強だけでなく、日本語の勉強も続け、日本人の友人をもっと作りたい。そして、中国とか日本とか関係なく、生活している人を助けるような技術を身につけ、それを活かす仕事をしたい。